



教育長あいさつ

新座市教育委員会教育長 金子 廣志

本日ここに、令和3・4・5年度新座市教育委員会委嘱による新座市立陣屋小学校の研究発表会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成には「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程を改善し、誰一人取り残すことのない教育を実践することが求められています。

このような中、陣屋小学校におかれましては、「個に応じた指導と協働的な学びの充実を目指した授業づくり～個に応じた指導から、個別最適な学びへ～」を研究主題とし、算数科の研究に熱心に取り組んでこられました。本研究は、その場に応じた協働的な学びを仕組むことによって児童の「考える力」や「粘り強く取り組もうとする力」が向上すると確信しています。

最後になりますが、本校の研究のために熱心に御指導いただきました、十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科 教授 日出間 均 様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、陣屋小学校 保戸田 雅之 校長を中心に御努力いただいた教職員、並びに研究推進に御尽力賜りました皆様に感謝申し上げます、あいさつといたします。



校長あいさつ

新座市立陣屋小学校 校長 保戸田雅之

本校は、令和3・4・5年度新座市教育委員会委嘱を受け、学力向上（算数科）「個に応じた指導と協働的な学びの充実を目指した授業づくり」を研究主題として研究に取り組んでまいりました。

研究3年目は、個別最適な学びのため自力解決に柔軟性をもたせました。ペアやグループで考えを交流・共有することも自らの課題を解決する手立てと捉え、児童の「分かった」「できた」「もっとやりたい」を大切に実践を重ねました。

その結果、少しずつですが粘り強く学習に取り組む児童に変容してきました。なかなか学力調査等の数値に成果として表れず、取り組まなければならない課題は山積していますが、ご参加の皆様のお意見をいただき、さらに研究を深めてまいりたいと存じます。

結びにあたり、これまで懇切丁寧に御指導いただきました十文字学園女子大学児童教育学科教授 日出間 均 様、新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長 石井 弥和子 様、新座市立新堀小学校教頭 池谷 ひろみ 様、埼玉大学教育学部附属小学校教諭 関口 泰広 様に厚く御礼申し上げます。

そして、3年間、様々な御指導・御支援をいただきました新座市教育委員会教育長 金子 廣志 様をはじめとする新座市教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

研究の成果と課題

- 自力解決の場面で、「自分で考える」「友達と考える」「先生と一緒に考える」など、児童が自ら課題への取り組み方を選択できるようにしたことで、自分の必要とする相手と関わりながら主体的に課題解決に取り組む姿が多く見られるようになった。(視点1、2)
- ロイロノートでの考え方の共有や資料箱の活用、学習コーナーの設置など、既習事項をいつでも確認できるような環境づくりをしたことで、児童が自分に必要な学びを必要な時に確認することができるようになった。(視点1)
- ペアやグループでの話し合いや交流をする場面では、視点を明確にして考えを交流できるようにすることで、必要感のある協働的な学びができ、児童が友達と関わることのよさを実感できるようになってきた。(視点2)
- 教師主体の「個に応じた指導」から、児童主体の「個別最適な学び」へと、教師の授業づくりの視点に変容が見られた。
- 問題解決の際、児童が、一つの考えを出して終わるのではなく、よりよい考えを見付けたいと思えるような個別最適な学びの手立てを探っていく。
- 自分で課題への取り組み方を選択できない児童へのよりよい関わり方や、コーディネーターとしての教師の役割を見直して支援していく。

ご指導いただいた先生方

十文字学園女子大学教育人文学部教授	日出間 均 先生
新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長	石井 弥和子先生
新座市立新堀小学校教頭	池谷 ひろみ先生

研究に携わった教職員

【5年度】◎研究推進委員長	○研究推進委員
〈校長〉保戸田 雅之	〈教頭〉池崎 麻里
○柴田 実那	三小 元美
大西 秀平	益子 晃太
○栗原 萌	○齋藤 美岬
吉田 潤	○酒見 早織
鈴木 純子	坂本 亜紀
熊谷亜依里	石井多摩美
植草 美香	櫛引 歩
○藤咲 芽依	○吉田みゆき
大村 隆弘	飯田 大生
遠藤 麻美	○戸張 靖子
山本 悠史	岡田真紀子
鈴木 陽子	荻野 貴子
小林 美樹	松岡 由江
○橋本 謙太郎	○根岸 優衣
山崎由紀子	○林 尚平
○雪山 萌恵	大塚 尚子
○湊 友	

【4年度】	〈校長〉杉原 浩二	高橋 茂樹	上野華奈子
沼澤千恵子	鳥崎 斐可	古俣 拓真	高橋 茂樹
田代 知子	佐藤 理恵	佐藤 澄子	土佐林恵理子
弘中 幸伸	島崎 皓太	川越 勝	藤井 利恵
			小嶋久美子

【3年度】	〈教頭〉鍵水 和重	〈主幹教諭〉吉田 泰生	市川 理恵	小野 晴江
齋藤 清史	宮嶋 隆之	鈴木 大翔	市川 理恵	小野 晴江
鈴木 洋子	須藤 博子	浦川 尚子	隠塚 輝明	櫻井イサ子
村上 みゆ				

おわりに

本校では、学力向上「個に応じた指導と協働的な学びの充実を目指した授業づくり」(算数科)を研究主題とし、関係各位のご指導をいただきながら研究を推進してまいりました。3年次の今年度は、子供たちに自力解決させるにはどうしたらよいかを軸に、教職員一丸となって研修に取り組みました。これまでの実践だけでなく、様々なアイデアが出され、より授業の幅が広がりました。これにより、子供たちの学習への意欲が少しでも高まったと考えます。

最後になりましたが、丁寧にご指導いただきました十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授 日出間均先生、新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長 石井弥和子先生、新座市立新堀小学校教頭 池谷ひろみ先生、埼玉大学教育学部附属小学校教諭 関口泰広先生をはじめ、新座市教育委員会の諸先生方、並びに本校教育活動にご支援ご協力をいただきました保護者・地域の皆様々に心より御礼申し上げます。

令和3・4・5年度
新座市教育委員会委嘱

学力向上
個に応じた指導と
協働的な学びの充実を
目指した授業づくり
～個に応じた指導から、
個別最適な学びへ～
(算数科)



新座市立陣屋小学校

〒352-0011 埼玉県新座市野火止 1-18-20

TEL 048-479-7231

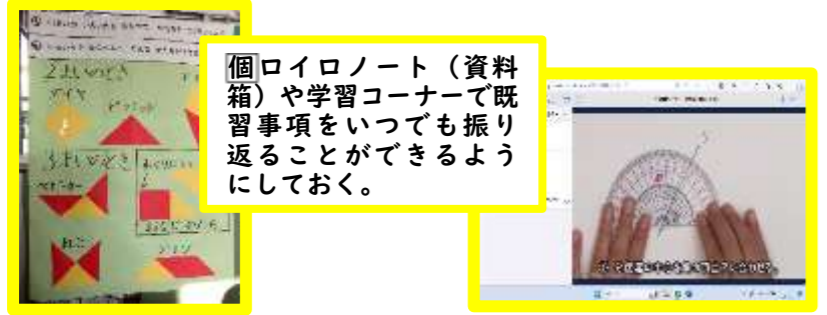
<https://e-jinya-c-niiza.edumap.jp/>

授業づくりの手立て

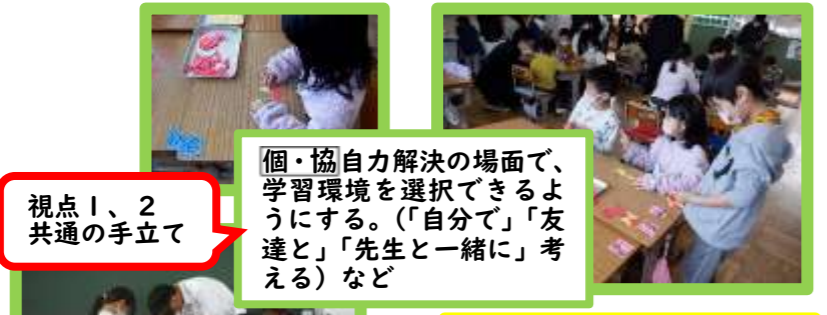
「学びのステージ」を意識して、授業の展開を考え、
【視点1 個に応じた指導（個別最適な学び）の充実】と
【視点2 協働的な学びの充実】から手立てを考え実践しました。

学びのステージ
 つかむ
 自力解決
 深める
 まとめる
 いかす
 ふりかえる

個ロイロノート（資料箱）や学習コーナーで既習事項をいつでも振り返ることができるようにしておく。



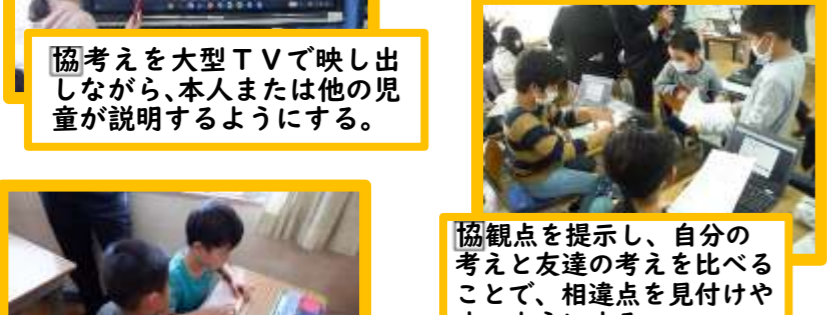
個・協自力解決の場面で、学習環境を選択できるようにする。（「自分で」「友達と」「先生と一緒に」考える）など



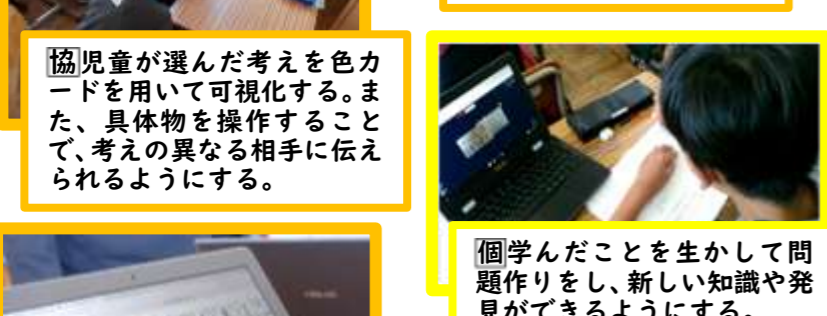
個考えを広げたり増やしたりするための「考え方カード」を用意しておく。



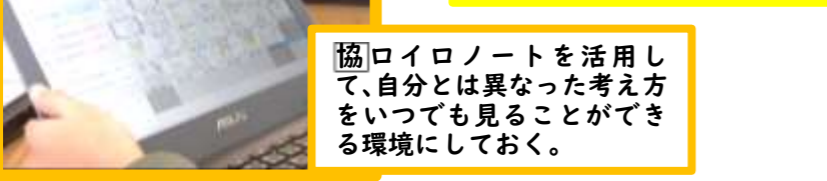
協考えを大型TVで映し出しながら、本人または他の児童が説明するようにする。



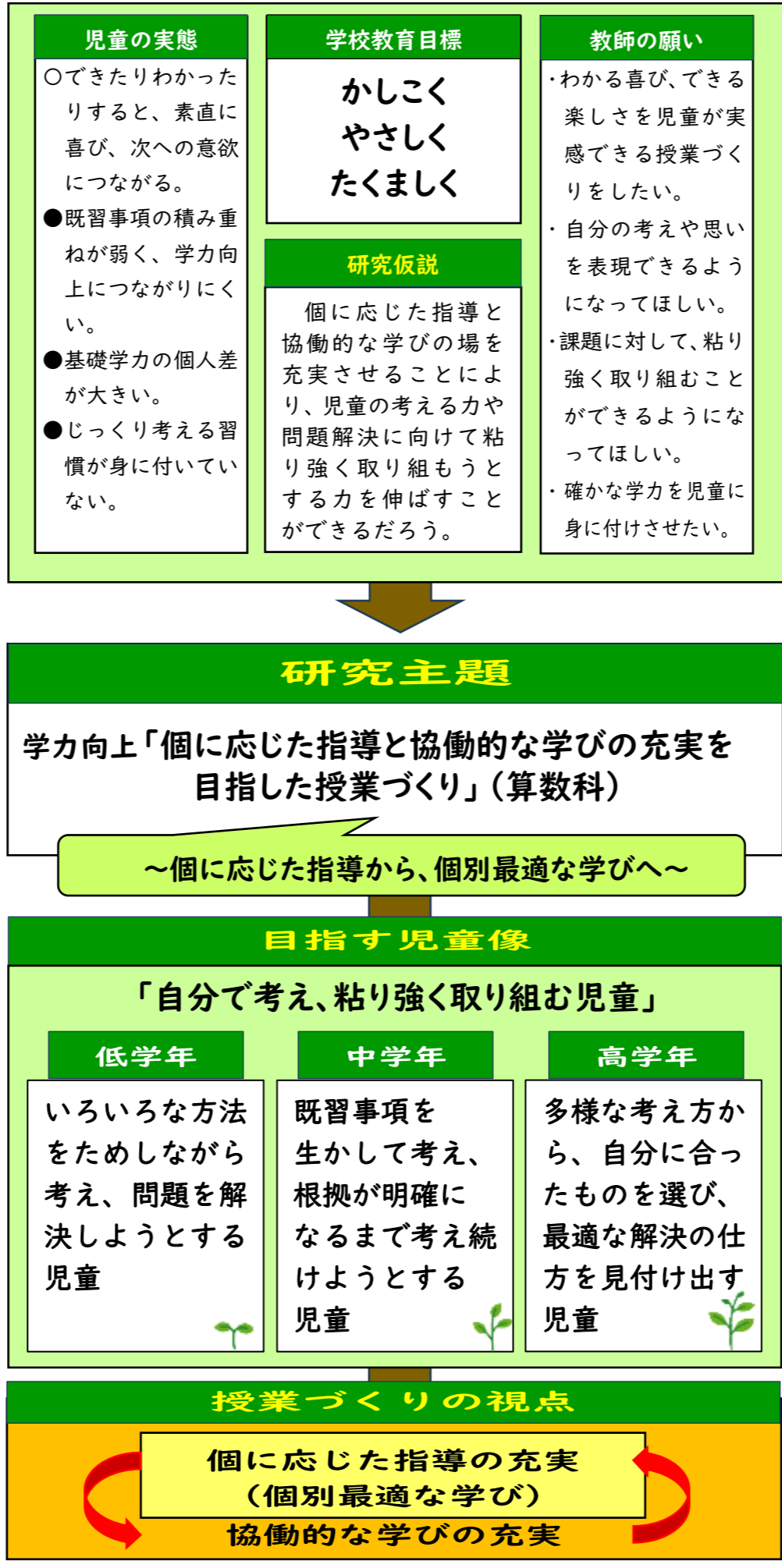
協児童が選んだ考えを色カードを用いて可視化する。また、具体物进行操作することで、考えの異なる相手に伝えられるようにする。



協ロイロノートを活用して、自分とは異なった考え方をいつでも見ることが出来る環境にしておく。



研究構想図



各部の取組

主に「授業研究部」「調査環境部」に分かれて活動しました。

授業研究部

2年次より「個別最適化部」「協働化部」に分かれて、目指す児童像に迫るための手立てを考え、整理しました。（整理した手立ては、左頁参照）



手立ての有効性について協議し、深める。

協議を踏まえて、整理する。

調査環境部

「算数科の授業についてのアンケート」（全12項目）を作成し、全校児童を対象に調査を実施しました。また、結果を分析し、児童の実態に合った授業づくりをするために活用できるようにしました。以下、令和4年7月と令和5年9月に実施した全校児童分の結果（抜粋）です。

図1 「どんな問題もあきらめないで取り組もうとしていますか。」

学年	いつもしている	だいたいしている	あまりしていない	していない
R4年7月	31	55	13	1
R5年9月	39	47	11	3

【図1】の結果では、「いつもしている」「だいたいしている」と答えた児童の割合が86%（R5年）になりました。授業では、自力解決の場面で、課題への取り組み方を選ぶことができるようにしたことで、自分に合った方法で粘り強く課題を解決しようとする児童の姿が見られるようになりました。

図2 「友達と一緒に考えたら、問題がわかるようになったことがありますか。」

学年	よくある	ときどきある	あまりない	ない
R4年7月	48	40	9	3
R5年9月	52	37	9	2

【図2】の結果では、「よくある」「ときどきある」と答えた児童の割合が89%（R5年）となりました。ペアやグループなどで話し合う活動を精選し、視点を設定して交流するようしたり、自力解決の場面で、友達と考える方法を選択できるようにしたことで、主体的に他者と考えを交流する児童の姿が多く見られるようになりました。